

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことのはの教室ことのは2号館		
○保護者評価実施期間	令和7年年 2月 18日		～ 令和7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34人	(回答者数) 33人
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 25日		～ 令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 24日口		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1の個別支援を基本としており、児童の気持ちに寄り添い、児童が自発的に言葉が発する気持ちになるよう職員が関わっていく。	言語聴覚士を中心にコミュニケーションの基本となる1対1の信頼関係の中から要求の発語を促したり、気持ちの伝え方の見本を見せ復唱等を促したりなど、児童それぞれの発達に応じてコミュニケーションのスキルを促している。	複数人の言語聴覚士を配置しているが、他にも理学療法士や作業療法士などのセラピストを配置しさらに多面的な専門的療育を展開したい。
2	言語的発達を支援するため、複数人の言語聴覚士を配置し、専門技術的な支援や訓練、また児童一人一人の評価や検査等を行なっている。	言語聴覚士だけでなく、保育士、児童指導員など経験豊富なスタッフを配置し様々な職種の職員が相互に連携(多職種連携)し、言語だけでなく総合的な発達を促す訓練を行なっている。	複数人の言語聴覚士を配置しているが、更に理学療法士や作業療法士などの多くのセラピストを配置しさらに多面的な専門的療育を展開したい。
3	ことのはの教室ことのはとして、複数の姉妹教室を運営しており、多くの言語聴覚士や理学療法士、作業療法士を含め支援の方法などについて、議論や情報の共有などを行い、それぞれの教室での支援へフィードバックしている。	月に2度オンラインで各教室を結び勉強会や意見交換、情報の共有を行なっている。	教室間の職員の交換留学を行うことで、各教室の取り組み方や運営方法など学び合うことで、更に良い支援へ繋げていけるよう会社全体で取り組んでいる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生の児童に対しては、集団活動やプログラム活動など社会性ややらなければいけないことなどを促しながらの訓練が必要になってくるが、基本的に個別指導や対応を基本としており、集団活動に乗せたりする活動が難しいことが多い。	個々の発達課題に対しての言語訓練やコミュニケーションスキルを上げる訓練のため個別訓練になるため、集団活動のメリットである促しが難しい。	本人の興味関心のあるアニメやゲームなどをうまく課題取り組みの導入部に取り入れられたり教材の一部に取り入れるなど、児童のモチベーション等が上がるよう工夫している。
2	毎回の訓練についての申し送りや児童についての情報共有を行なっており、個々の保護者との信頼関係は築けている。しかし、保護者(全体)への支援としては、保護者会の開催などが実現できていない。	保護者からの訓練への要望が大きく、年度によっては特に保護者会開催への要望もないことも多く、利用日をお休みにしてまで実施できていない。	次年度は、保護者へ保護者会開催についてのニーズをアンケート等で確認し、希望者が少数であっても1回は開催を計画実施したい。
3	地域との交流や地域の保育園や学童クラブ等との交流が少ない。	ことのはの利用児童の実態として、言葉でのコミュニケーションが苦手な子や自閉的傾向の強い児童が多く、地域の健常児とのコミュニケーションが難しい。そのため定期交流などが計画できていない。	施設・団体全体での交流については難しいが、言葉でのコミュニケーションが取れる児童については、地域の公園や児童館等に出向き、地域の児童たちと交流できるよう職員が仲介し小集団での交流は実施している。